



ペットの防災準備は 大丈夫...!?

大規模災害に備えて、次のものを準備しておきましょう。

1. 飲料水、食器



最低 7 日分は必要です。目安は体重 1kg あたり 1 日 50～100ml。体重が 10kg なら 1 日 1000ml 必要です。食器も忘れずに用意しましょう。

5. 首輪とリード



ワンタッチ式首輪と伸縮式リードは避け、首輪には飼い主の名前や連絡先を明記しましょう。普段からベルト式の首輪に慣らしておきましょう。

2. ペットフード



飲料水同様、最低 7 日分は必要です。療法食・処方食を与えているのであれば 1 か月分は準備をしましょう。持病がある場合は薬も忘れずに。

6. ペットの記録



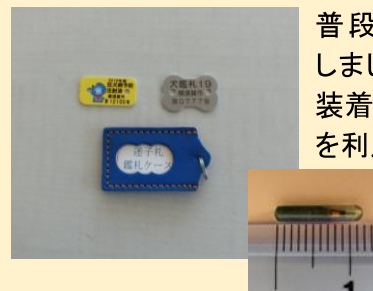
手帳型でなくとも、特徴や病歴・ワクチン履歴など、簡単な記録を準備しておきましょう。迷子になった時や避難先で獣医師が巡回した際に便利です。

3. 犬用足袋



避難時の足裏のケガを防ぎます。子ども用靴下やイスの脚カバーの底に足の大きさに合わせたダンボールを入れ、ガムテープや圧着包帯を巻くことで代用できます。

7. 鑑札、狂犬病予防注射済票（犬の場合）



普段から鑑札・済票を装着しましょう。鑑札などを入れて装着できる専用ケース（市販）を利用するのもよいでしょう。

マイクロチップを装着している場合は番号を控えておきましょう。

4. ケージ



同行避難に備えて飼い主がケージを用意することが鉄則です。飼い主の住所氏名、ペットの呼び名などを明示します。普段からケージに入れることに慣らしておきましょう。

8. お散歩バグー式



ヘッドランプ、ゴミ袋（小袋と 45L）を用意しておきましょう。暗い場所でのペットの糞の始末に役立ちます。

災害に備えましょう！

日頃からの備えが大切です。

自助

<災害時の対応は、自助が基本です>

災害時には被災者自身が生き延びるための努力を行う「自助」が基本です。

被災した住民同士による「共助」や行政による「公助」には限界があります。

特に首都圏のような人口密集地域では共助や公助、支援物資も十分行き渡らないかもしれません。これは、同行ペットに関してであればなおさらです。

少なくとも表面に記載されているものは準備しておきましょう。

しつけ

<速やかに避難し、慣れない避難生活で迷惑にならないために>

1. マテ・オスワリなどの基本的なしつけ
2. ケージの中に入ることを嫌がらない
3. 不必要に吠えない
4. 色々なフードを食べること（特定のものばかりが手に入るとは限りません）

ケージ慣れ

■ 普段から休める場所として開放しておく

■ 動物が寝そべることが出来て、広すぎず、狭すぎない大きさ

■ ケージの中でおやつやフードをあげ、良い印象をもたせる

■ ケージの中でリラックスしているのを見つけたらほめる



■ 閉じ込めるなど、悪い印象を与えないようにする

■ 安心できる場所なので、災害の際に動物が避難することもある

■ 初めての避難所でも、ケージに慣れているとストレスが少ない

■ 柔らかい素材より固い材質の方が安全度は高い

知 識

<いざという時のために、事前に確認しましょう>

1. 最寄りの避難所・避難場所を確認しておきましょう。
2. 災害時の家族間の連絡体制を決めておきましょう。
3. 発災時は避難所に行くだけが避難ではありません。
状況に応じ、安全が確認できれば自宅に留まるのも選択肢の一つです。
4. ハザードマップ・地域防災計画・災害時の交通規制情報も確認しましょう。

避難所での注意点

<周りの人への配慮>

避難所でのペットの受け入れの可否は、各避難所運営委員会の判断になります。

避難所には様々な人（動物の嫌いな人、アレルギーを持つ人、不用意に手を出す子供など）が集まります。決められた場所で飼うことはもちろん、普段よりも周りに配慮することが求められます。避難所の人たちと上手にコミュニケーションを図り、**ペットが受け入れられ易い環境を作ることが大切です。**

災害時、ペットの命を守れるのは飼い主だけです！

環境省ホームページ
「ペットの災害対策」は
こちらをご覧ください。

